

総論部分 細目次とキーワード（案）

序章 求められる国土づくりの転換（5ページ程度）

節	項目	キーワード
（これまでの国土政策の達成状況）		
	国土	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国土は有限な資源 ・ 国土は国民の諸活動の共通の基盤 ・ 適切に利用、開発及び保全することにより次の世代に継承していくことが国土計画の使命
	国土政策として成果があがったもの	<ul style="list-style-type: none"> ・ 製造業立地の地方分散 ・ 人口移動の安定化 ・ 地域間所得格差の縮小 ・ 公害防止と生活環境の向上 ・ 公共施設整備水準の向上・平準化
	依然として残る課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過疎問題、中心市街地の空洞化 ・ 整備途上にある国土基盤 ・ 木造密集市街地の整備などの大都市の防災性向上 ・ 人と自然の望ましい関係の構築 ・ 悪化している国土景観
（国土づくりに転換を迫る潮流）		
	人口減少・高齢化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経験したことの無い総人口減少 ・ 人口減少による地域社会の崩壊 ・ 空間的ゆとり、意識の成熟化などプラス要因も存在 ・ 高齢社会の社会規範・市場の形成、人的交流拡大の好機
	国境を越えた地域間競争	<ul style="list-style-type: none"> ・ 競争にさらされることの不安 ・ 市場が拡大することのメリット
	環境問題の顕在化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地球環境問題への国際的対応 ・ 人と自然との共生の希求 ・ ランドスケープの形成意識の増大
	投資制約	<ul style="list-style-type: none"> ・ 維持・更新投資が増大 ・ 新規投資余力の減少 ・ メリハリのない公共施設整備からの脱却（の好機）

	中央依存の限界	<ul style="list-style-type: none"> 地方分権など模索状況にある国と地方の新たな協調関係
(人口減少・少子高齢化に係る新たな課題)		
	地域社会崩壊の懸念 (現状+理由)	<ul style="list-style-type: none"> 地方都市の拠点性の低下 遠隔地における大幅な人口減少と低密度・無居住地域のさらなる拡大
	(課題)	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少下の生活関連サービス確保
	都市 (現状+理由)	<ul style="list-style-type: none"> 混雑、住宅難の緩和 土地利用転換圧力の低下 中心市街地のさらなる空洞化 それでも止まらない郊外化 市街地の拡大拡散による環境への負荷と社会資本整備・維持コストの増大 美しさと風格に欠ける都市景観
	(課題)	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少を好機とした国土利用の再編
(国境を越えた地域間競争に係る新たな課題)		
	国際経済における日本の相対的地位低下 (現状+理由)	<ul style="list-style-type: none"> 世界GDPに対する日本の比率低下 貿易量に対する日本の比率低下 低い競争力
	(課題)	<ul style="list-style-type: none"> 産業としての国際競争力の強化 外国人受け入れ環境の整備、治安悪化への対応
	国際流動における日本の位置付けの低下 (現状+理由)	<ul style="list-style-type: none"> 人、物、情報の流動が増加する中での相対的地位の低下 (例) コンテナ取扱量の地位低下 (例) 情報通信分野での地位低下 (例) 観光収支の赤字
	(課題)	<ul style="list-style-type: none"> 人流の円滑化(近隣諸国への日帰り) 物流の円滑化、基盤の整備、規制緩和 情報通信基盤の強化
	地域経済の疲弊 (現状+理由)	<ul style="list-style-type: none"> 東京圏への人口と知的資本の再集中 所得に関する地方圏との格差は縮小傾向 製造業の海外移転・撤退や公共投資の削減に伴う地域産業の落ち込み(雇用減少) モノからサービスへの支出シフトに伴う地方圏での小売業の不調

	(課題)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域資源の有効活用による地方圏の生産性の向上 ・ サービス業(観光含む)を中心とした新たな雇用機会の創出
(環境問題の顕在化に係る新たな課題)		
	環境負荷の削減と自然との共生 (現状+理由)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進む地球温暖化(CO₂排出の増大) ・ 国内外の大量の資源消費と環境への大きな負荷 ・ 限界に達した廃棄物の処理 ・ 自然環境の量的減少と質的劣化 ・ 人と自然とのかかわり合いの希薄化
	(課題)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資源多消費型からの転換 ・ 自然環境の保全と回復 ・ 森林、農村、都市をつなぐエコロジカルネットワークの形成
	国土資源管理水準の低下 (現状+理由)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森林の施業放棄、農地の耕作放棄 ・ 河川流量の減少、渇水 ・ 農林水産業の動向(低い国際競争力)
	(課題)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食、水の安全に対する不安への対応 ・ 食糧自給率の向上 ・ 国土資源の適切な管理 ・ 土地、水、自然の国土資源の適切な管理によるランドスケープの保全と形成
	災害からの安全の確保 (現状+理由)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大規模災害への不安(東海地震、東南海・南海地震など) ・ 都市化に伴う自然災害の潜在的な被害規模の拡大
	(課題)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大規模災害対策 ・ 地域力の増強による防災(防犯) ・ リスク管理と情報提供 ・ 土地利用の規制と誘導による安全性の高い国土利用への転換
(投資制約に係る新たな課題)		
	国土基盤 (現状+理由)	<ul style="list-style-type: none"> ・ モビリティは向上 ・ 依然として高い基盤強化要請 ・ 情報通信基盤に地域格差 ・ 維持・更新費用が増大
	(課題)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 競合投資の排除

		<ul style="list-style-type: none"> 投資優先度の厳格な評価と事業化の峻別 基盤の整備・更新時には将来の用途転換も含めた検討が必要
(中央依存の限界に係る新たな課題)		
	(現状+理由)	<ul style="list-style-type: none"> 地域の特色の喪失 国と地方自治体の財政問題 「官から民へ」、「国から地方へ」(国と地方の改革) 市町村合併の進展
	(課題)	<ul style="list-style-type: none"> 「個性ある地域の発展」、「知恵と工夫の競争による活性化」を重視した地域再生 市町村合併等組織改変による効率化
(将来への道筋の提示)		
	国土づくりの転換を図る好機	<ul style="list-style-type: none"> 従来の基盤投資の見直し 投資制約、地方分権はこれまでの国土づくりの転換を促す要因。その好機ととらえるべき
	先行きが不透明感を払拭しうる国のかたちを示すことが重要	<ul style="list-style-type: none"> 国土計画は国として国土のあり方を示す唯一の手段 「生活の安定」「地域社会の活力」「自然との共生」がバランス良く実現する国土のあり方を示すことが必要 国民、地方、国が将来像を共有することで先行き不透明感を払拭
	第1章～第3章のイントロ	<ul style="list-style-type: none"> 国土づくりに転換を迫る大きな潮流に応じて、第1章から第3章に示した観点から調査・分析を行った。

総論部分細目次とキーワード（案）

第4章 目指すべき国のかたち（6～7ページ程度）

節	項目	キーワード
1. 目指すべき国のかたち		
	国のかたち	<ul style="list-style-type: none"> 多様な地域特性に応じた 高い効率、ゆたかな生活、美しく快適な環境を実現して世界で最も優れた国土にする。 そのためのグランドデザインを描く
	国土づくり・地域づくりにおける社会的連帯	<ul style="list-style-type: none"> 国土の一体感の醸成 国としての誇り、美しい国づくり 地域づくりにおける社会的連帯
	多様な地域特性の展開	<ul style="list-style-type: none"> 多様な価値観に基づく地域特性の展開が基調
	国土の均衡ある発展	<ul style="list-style-type: none"> 理念が本来意味するところである「多様な地域特性の展開」は継承 理念の再構築について国民的に議論
	世界に開かれた国土の形成	<ul style="list-style-type: none"> 国際競争の単位としての「国」 東京は世界の中の幾つかある拠点のひとつでもある。 東アジアコミュニティ形成に向けた地域レベルの国際連携の推進 日本ブランドである安全、清潔、環境、高技術といった特色を伸ばす 国際交流基盤の強化と国内外交通・通信のシームレス化 外資導入や外国人受け入れ環境の整備等による国内産業の強化 外国人受け入れについて
	「自立広域圏連帯型国土」（仮称）の形成	<ul style="list-style-type: none"> 東京を頂点に国内で競争する構造からそれぞれの地域ブロックが自立し世界で競争する構造へ 自立した「地域ブロック」が交流・連携する構造へ 地域ブロックにおける「選択と集中」 拠点都市圏、産業集積等への重点投資 地域ブロックの空間的拡がり・経済規

		模については今後検討
	「地域ブロック」を支える「生活圏域」の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「生活圏域」を形成し、圏域内での機能分担と相互補完による都市的サービスの維持 ・ 連携困難地域（生活圏域の形成が困難な地域）における高次情報インフラ整備による生活機能の代替 ・ 豊かな暮らしを実現する、自助と互助による「ほどよいまち」づくり ・ 「地域力」の向上による安全・安心・活力の確保
	二層の広域圏の形成と一極一軸型国土	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一極一軸型国土からの転換は継続
	東京問題に対する認識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現状以上に分散政策を強化することには慎重に対処
	持続可能な美しい国土の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 循環型社会の形成（物質循環の地域的コントロール） ・ ランドスケープの保全と形成を目指す国土資源の国民的経営 ・ 都市的土地利用の秩序ある集約化と自然環境の再生・活用 ・ 国土利用の再編と質的向上（安全性、持続可能性、美しさ、ゆとり） ・ 国土利用のマクロバランスの再検討
2. 国土計画の今日的意義		
	国土計画の本質	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国土における有限な資源の地域間、部門間、世代間の配分 ・ 国として望ましい国土像として提示して諸施策に指針を与える
	これまでの全総計画のレビュー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過疎過密、土地需要の量的調整等の課題の解決に一定の役割 ・ 重点化、目的手段関係の明確化、指針性の向上が課題
	国土計画が求められる背景	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国土計画は長期的、総合的、空間的な計画 ・ 「生活の安定」「地域社会の活力」「自然との共生」がバランス良く実現する国土のあり方を示す唯一の手段 ・ しかし、国土計画は森羅万象を扱うも

		<p>のではなく、国土の利用、開発、保全という観点から国土の発展の必要条件を示しているもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ また、国土計画は今までの計画のままが良いというわけではない ・ 国土づくりに転換を迫る大きな潮流（投資制約、地方分権）に応じた改革が必要
	目指すべき国のかたちを提示することの今日的意義	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界と日本との関係で国土を位置付ける事に今日的意義 ・ 世界に開かれた「自立広域圏連帯型国土」(仮称)の形成することが今日的課題 ・ 人口減少・高齢化、財政制約を好機として国土利用を再編し、投資制約、環境負荷削減に対応 ・ 「選択と集中」を行うことにより、効率的な国土を形成
	国土の総合的管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国土基盤整備の選択と集中と国土利用の再編を総合的に実施して、目指すべき国のかたちを実現することが国土の総合的管理 ・ 国土を適切に管理していくための指針としての役割を果たす
	国の方針と地方との役割分担の明示	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国と地方の相互連携、対流原理に基づく計画づくり ・ 国の方針と関与の範囲を明示して地方との役割分担を明確化 ・ 各地域が個性をより顕在化させ、固有の魅力を創出する仕組みの提示
	実効性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国土計画が本来持つ長所である空間性、長期性、総合性を伸ばす ・ 合意形成性を強化